

令和3年度

# 学校要覧

## 瑞穂町立瑞穂第五小学校



〒190-1212 東京都西多摩郡瑞穂町殿ヶ谷1160

TEL 042-556-1377 FAX 042-557-4905

JR八高線・箱根ヶ崎駅下車バス・石畑駐在所下車徒歩10分

ホームページ <http://academic1.plala.or.jp/mizuho5/>



### 校歌

作詞 木島 始  
作曲 林 光

ぼくらは 種をもっている  
ブンブンブンブン 歌いだす  
めいめい ふしぎな種なのだ  
光と水が 芽ばえさせ  
緑がしげれば 根はつよい  
ブンブンブンブンブンブンブン  
瑞穂五小に 緑あれ

ぼくらは 夢をもっている  
ズンズンズンズン 動きだす  
めいめい すてきな夢なのだ  
翼と星が 飛びたたせ  
はるかな輝き 抱きしめる  
ズンズンズンズンズンズンズンズン  
瑞穂五小に 翼あれ



# 瑞穂第五小学校の教育

**【教育目標】** 生涯を通じて主体的に学ぶことの基礎を培う観点から、知・徳・体にわたって調和のとれた子供を育てるために次の目標を定める。

◎自ら学ぶ子(知・体) ○思いやりのある子(徳) ○最後までやりぬく子(知・徳・体)

## 【目指す学校像】「元気いっぱい笑顔あふれる みんなの学校」

- ◇ 瞳輝かせて通える学校 【元気な子供】
- ◇ 教職員の創意・工夫が生きる学校 【元気な教職員】
- ◇ 保護者・地域の方々と共に進める学校 【元気な家庭・地域】



## 【今年度の経営目標】

- 1 『地域の中の学校』を意識して、ふるさと学習「みずほ学」を基礎に、持続可能な未来や社会の構築のために行動できる子どもの育成を目指す。
- 2 「確かな学力の定着」を最重要課題として位置付け、日々の授業改善に取り組む。また、家庭学習の習慣化を目指し、放課後学習「学びのテーマパーク」を充実させるなど、学校・家庭・地域との連携を図る。
- 3 コロナ禍において感染予防対策を講じつつ、持続可能な教育活動の在り方を模索する。また、GIGA スクール構想に基づき、一人一台のタブレットの有効活用とハイブリッド型学習の構築に努める。
- 4 家庭と連携しながら「新型コロナウイルスの感染症対策」を講じ、子供たちの命と健康を守る。また、「交通安全指導」並びに「情報モラル教育（SNS ルール）」を通じて、子供たちの安心・安全を守る。

## 【目標に対する主な取組項目と具体的方策】

<p><b>1 学力向上と重点</b></p> <p><b>意図的・計画的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● カリキュラム・マネジメント</li> <li>● 授業の終末にめあての振り返り</li> </ul> <p><b>基礎学力の定着</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 複数指導体制による朝学習</li> <li>● 放課後個別学習、「学びのテーマパーク」</li> <li>● 「てびき」に基づく家庭学習</li> <li>● 「学年×10分+10分」</li> </ul> <p><b>多様な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 主体的・対話的で深い学び</li> <li>● 問題解決型の授業</li> <li>● ICT 機器を活用した授業</li> <li>● 習熟度別算数授業（3～6年）</li> </ul>	<p><b>2 健康・体力</b></p> <p><b>体力向上の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● オリンピック・パラリンピック教育</li> <li>● 一学級一実践の年間取組</li> <li>● スポーツ旬間</li> </ul> <p><b>健康教育の充実推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭への啓発</li> <li>● 「早寝・早起き・朝ご飯+歯磨き」</li> <li>● 6年児童に「がん教育」</li> <li>● 給食センターと連携した食育指導</li> </ul>	<p><b>3 道徳教育・特別活動</b></p> <p><b>道徳授業の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 道徳授業地区公開講座</li> <li>● 「考え、議論する道徳」授業</li> </ul> <p><b>特別活動の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 縦割りによる行事、集会、清掃</li> <li>● 自主的・自発的に取り組むクラブ・委員会活動</li> </ul>
<p><b>4 特別支援教育</b></p> <p><b>個に応じた指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別指導計画や支援シート</li> <li>● よつば教室（特別支援教室）の有効活用</li> <li>● ユニバーサルデザイン</li> </ul> <p><b>教育相談機能の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● トトロルームの有効活用</li> <li>● SCによる全員面接の拡充</li> <li>● 特別支援委員会、ケース会議</li> </ul> <p><b>特別支援教育の理解推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者や子供への啓発</li> <li>● OJTを通しての教員研修</li> </ul>	<p><b>5 生活指導</b></p> <p><b>学習規律・生活規律の確立</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「学校のきまり」の見直し</li> <li>● 模範となる高学年児童の育成</li> </ul> <p><b>豊かな心の醸成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 重点「挨拶と正しい言葉遣い」</li> <li>● 環境美化（教室・廊下等）</li> </ul> <p><b>安全指導の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全教育プログラムの活用</li> <li>● 情報モラル教育の徹底</li> <li>● 地域と連携した交通安全指導</li> </ul> <p><b>いじめ防止・不登校防止対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 未然防止、早期発見・早期対応</li> <li>● 「いじめアンケート」や「家庭と子供の支援員」の有効活用</li> </ul>	<p><b>6 研修・研究</b></p> <p><b>校内研究の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学力向上を目指す（国語科）</li> <li>● 教師の授業力向上を図る</li> <li>● ICTを活用した国語科の授業</li> </ul> <p><b>人権教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人権教育プログラムの活用</li> <li>● みずほあったか先生（率先垂範）</li> </ul> <p><b>OJTの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● OJT 週間の取組</li> <li>● 相互授業観察</li> <li>● 放課後の OJT タイム</li> </ul>
<p><b>7 特色ある教育</b></p> <p><b>「みずほ学」とESDの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題解決型学習</li> <li>● 豊かな自然環境の活用</li> <li>● 隣接する福祉施設との連携</li> <li>● 幼稚園・保育園との連携</li> </ul> <p><b>読書活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 朝読書、読書の木、地域ボランティアによる読み聞かせ等</li> <li>● 年3回の読書旬間</li> </ul>	<p><b>8 家庭・地域との連携</b></p> <p><b>教育活動の積極的な発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● HP・ブログ更新、メール配信等</li> <li>● 学校・学年・学級便り等の充実</li> <li>● 学校評価の公表・学校公開</li> </ul> <p><b>PTAや地域との協力体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校ボランティアの活用</li> <li>● PTA/地域行事への教員参加</li> <li>● 地域学校協働本部の設置</li> <li>● 放課後学習「学びのテーマパーク」</li> </ul>	<p><b>9 経営・組織</b></p> <p><b>経営計画の具現化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画運営会議の定例化</li> <li>● 自己申告を通じた人材育成</li> </ul> <p><b>組織的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 働き方改革、校務支援システムの活用</li> <li>● 事務/用務による経営支援</li> <li>● 年度末評価に基づく学校改善</li> </ul> <p><b>開かれた学校づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者アンケートの活用</li> <li>● 学校評価/授業評価の充実</li> </ul>



# 校内研究

## 学校の教育目標

「自ら学ぶ子」 「思いやりのある子」 「最後までやりぬく子」

### 国語科の目標

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

### 児童の実態

本校児童には基礎学力の定着に課題が見られる。文章の内容を正確に読み取ったり、自分の思いや考えを言葉で説明したりする力が十分ではない。

### 研究主題

しっかりと自分の考えをもち、表現できる子供の育成  
～ICTを活用した国語科授業をデザインする～

### 研究主題のとらえ方

主体的・対話的で深い学び 問題解決型の授業づくり ICTの効果的な活用

#### しっかりと自分の考えをもち

- ① 文章を正確に読み取る。
- ② 意見や感想、及び問いに対する自分の考えをもちことができる。

#### 表現できる

国語を使って内容や事柄を適切に表現し、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。

### 研究の仮説

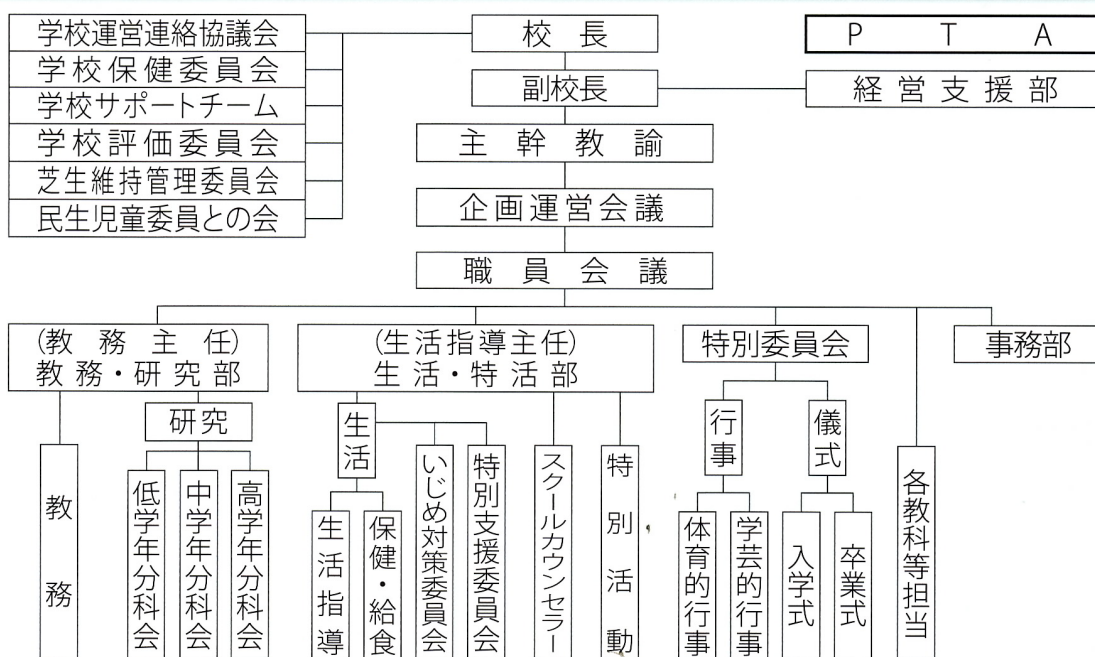
- (1) 興味・関心を高め、学習課題に対して目的や必要性を感じる授業づくり、一人一人が学びたい、考えたい、話したいと思わせるような教材の工夫をすれば自分の考えをもちことができる。
- (2) 児童が自分の考えを表現できる場を工夫し、他者と交流しながら、考えを広げ深める工夫をすることで、自分の考えを表現することができる。
- (3) ICTの活用等、国語科の学習を支える学習環境の整備や、基礎学力向上のための日常的な取組の工夫を行えば、国語科の楽しさを知り、自ら学習する意欲を高めることができる。

### 目指す児童像

自ら問いを見付け、主体的に解決していこうとする児童 学びたいことを学び続ける方法を身に付けようとする児童

### 研究授業・仮説の検証

# 校務分掌



## 児童数

(令和3年5月1日現在)

	1年	2年1組	2年2組	3年1組	3年2組	4年	5年1組	5年2組	6年	合計
男子	15	9	9	11	11	20	11	10	17	113
女子	13	9	10	13	13	18	10	10	12	108
計	28	18	19	24	24	38	21	20	29	221

## 生活時程

開門	8:00		
	通常時程	水曜時程	特別時程
朝の会	8:20 ~	8:30	8:20 ~ 8:30
朝学習	8:30 ~	8:40	
1校時	8:45 ~	9:30	8:30 ~ 9:15
2校時	9:35 ~	10:20	9:20 ~ 10:05
中休み	10:20 ~	10:40	10:05 ~ 10:15
3校時	10:45 ~	11:30	10:20 ~ 11:05
4校時	11:35 ~	12:20	11:10 ~ 11:55
給食	12:20 ~	13:00	11:55 ~ 12:35
掃除	13:00 ~ 13:20	13:00 ~ 13:05	12:35 ~ 12:40
昼休み	13:20 ~ 13:35	13:05 ~ 13:15	12:40 ~ 12:50
5校時	13:40 ~ 14:25	13:20 ~ 14:05	12:55 ~ 13:40
6校時	14:30 ~ 15:15		13:45 ~ 14:30
委員会	14:40 ~ 15:25		
クラブ	14:40 ~ 15:40		
下校	15:50	14:25	14:45

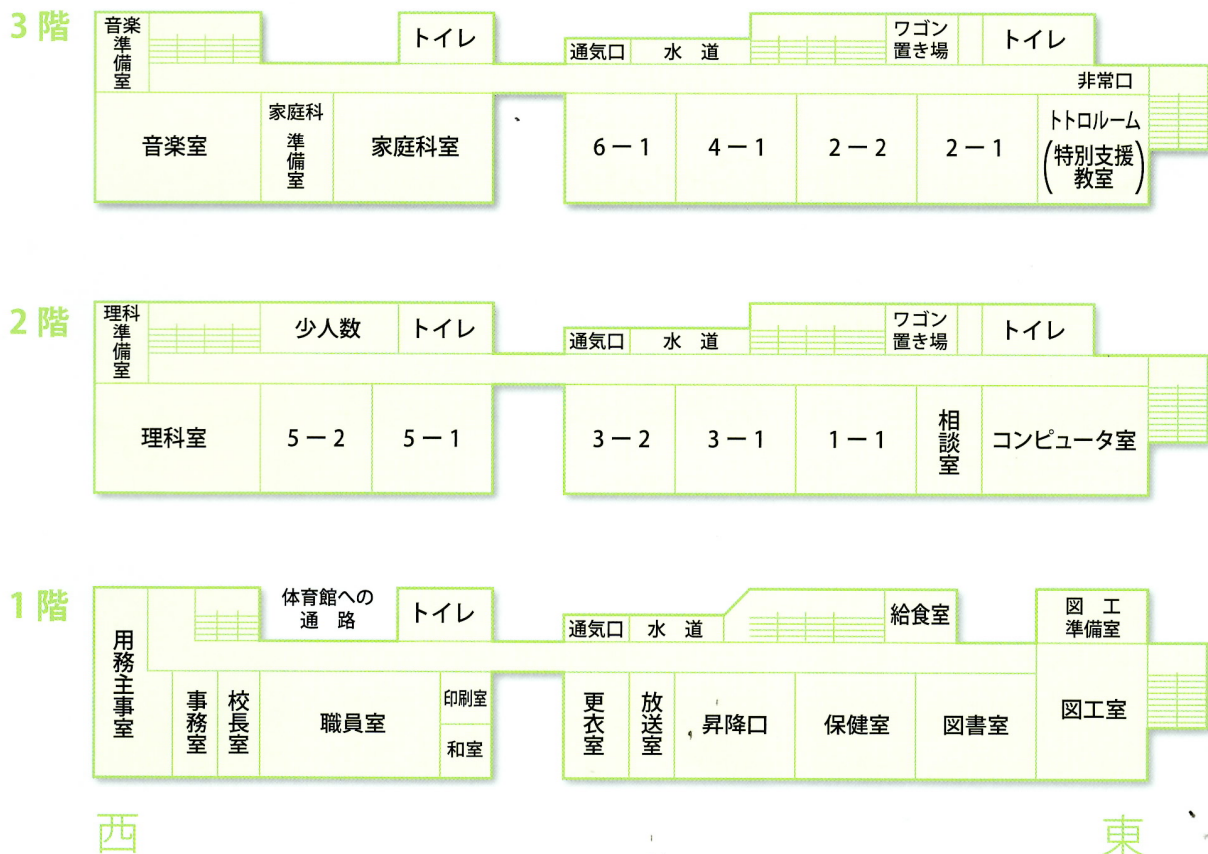


## 主な学校行事

月	行 事
4月	始業式・入学式 定期健康診断 1年生を迎える会 全校校外学習(縦割り班) 働く消防の絵写生会 セーフティ教室 PTA総会
5月	離任式 運動会 スポーツ旬間
6月	小中合同引き渡し訓練 体力テスト プール開き 自転車安全教室(3) コミュニケーション週間 開校記念日 音楽鑑賞教室(5) 初夏の読書旬間 五小まつり
7月	校外学習(6)学校公開 着衣泳(3・6) 終業式 夏季水泳教室・ステップアップ教室
8月	みずほっ子東京 2020 競技観戦 始業式
9月	日光移動教室(6) 岩井臨海学校(5) 学校公開(敬老参観日) 薬物乱用防止教室(6) 校外学習(4)
10月	集団下校訓練 秋の読書旬間 学習発表会
11月	小中合同音楽会(5・6) 秋のスポーツ旬間 グリーンロード大会 校外学習(3・5) 生活科見学(1・2)
12月	終業式
1月	始業式 道徳授業地区公開講座・書写展 冬のスポーツ旬間 漢字検定(3・5)
2月	冬の読書旬間 瑞穂中見学(6) JFA心のプロジェクト(5)
3月	6年生を送る会 修了式 卒業式

※新型コロナウイルス感染症拡大等の影響で変更の可能性があります。

## 教室配置





## 瑞穂町の環境や施設・人材を生かしたさまざまな教育活動

※令和元年度の実績です。令和3年度については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による変更があります。

### 【学校周辺の自然を生かした体験活動】



五小探検隊



六道山の自然と遊ぼう・親しもう



六道山の自然調査



体育館裏筍掘り



お茶プロジェクト(茶摘み体験)



残堀川調査隊



PTAのホタル鑑賞会



チャレンジ五小の田んぼで米作り〈田植え・稲刈り〉



### 【特色ある教育活動】



縦割り班を利用した全校校外学習



一人一台タブレット



初夏・秋・冬の読書旬間



## 【学校行事】



約9,400㎡の校庭を活用した運動会〔5月〕



音楽会



グリーンロード大会



岩井臨海学校〔5年〕



日光移動教室〔6年〕

## 【ふるさと学習「みずほ学」の推進】



IHIの宇宙授業



瑞穂農芸高校



地域ゲストティーチャーによる特別授業



働く消防写真会



高齢者と子どもの集い



保育園との交流

## 【オリンピック・パラリンピック教育】



車いすラグビー



陸上長距離走(駅伝)



ダブルダッチ



## 沿革の概要

昭和53年	4月	瑞穂第一小学校より分かれ児童数269名で開校
	8月	岩井臨海学校開始
昭和54年	1月	体育館竣工
昭和55年	3月	校歌制定
昭和59年	4月	東京都研究推進校として算数科の研究開始
昭和61年	3月	研究発表会開催
	6月	開校10周年記念としてサツキ1300本植樹
昭和62年	6月	開校10周年記念式典挙行
平成4年	3月	小プール設置
平成10年	3月	開校20周年記念誌発行
平成14年	3月	校庭にブロック製投てき板設置(卒業記念作品)
	5月	総合的な学習の時間に「田んぼプロジェクト」開始
平成15年	3月	プールに温水シャワー設置
	4月	東京都研究奨励校として算数科の研究開始
平成18年	2月	東京都研究奨励校として研究発表会開催
	4月	瑞穂町校内研究課題推進校として国語科の研究開始
平成19年	6月	開校30周年記念集会・講演会・記念誌発行
平成20年	10月	瑞穂町校内研究課題推進校として研究発表会開催
平成21年	4月	瑞穂町校内研究課題推進校として算数科の研究開始
平成22年	8月	校舎耐震工事、体育館耐震・改修工事
平成23年	2月	瑞穂町校内研究課題推進校として研究発表会開催
	4月	東京都言語能力向上推進校として研究開始
平成24年	6月	校庭芝生化工事開始
	10月	芝開き(校庭全面芝生)
平成25年	11月	東京都言語能力向上推進校として研究発表会開催
平成26年	4月	東京都オリンピック教育推進校として取組開始 瑞穂町校内研究推進校として体育科の研究開始
平成27年	4月	東京都オリンピック・パラリンピック教育推進校として取組開始 コーディネーショントレーニング実践研究校として研究開始
	10月	コーディネーショントレーニング実践研究校・瑞穂町校内研究推進校として研究発表会開催
平成28年	4月	瑞穂町校内研究推進校として算数科の研究開始(3月 誌上発表)
平成29年	2月	東京都より子供の体力向上推進優秀校として表彰を受ける
平成29年	4月	東京都持続可能な社会づくりに向けた教育推進校として研究開始 瑞穂町校内研究推進校として生活科・総合的な学習の時間の研究開始
	6月	開校40周年記念集会
平成30年	2月	東京都持続可能な社会づくりに向けた教育推進校として研究発表会開催
	2月	東京都より環境教育推進優秀校として表彰を受ける
	11月	東京都持続可能な社会づくりに向けた教育推進校・瑞穂町校内研究推進校として研究発表会開催